



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am (「朝の祈り」に続いて)
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



今ここにある死と復活

主任司祭 小西 広志 神父

イエスの復活。この出来事とわたしたちは、どのように関わり合っているのでしょうか。イエスの復活の出来事を伝える福音書の記事から私たちは何をくみ取ればよいのでしょうか。この点を少し一緒に考えてゆきたいと思います。

今は四月で新入学シーズンです。多くの人が新しい生活に呼ばれ、新しい生き方が始まっていきます。例えば幼稚園に入園する小さな子どものことを考えてほしいのです。今までずっと家庭の中で育ててきた子どもに、幼稚園という新しい世界が始まります。多くの子もたちは期待と不安の入り交じった表情で登園してきます。なかにはお母さんのもとを離れるのがイヤだと泣き出す子もいます。子どもたちは今までの自分の生き方とはまったく違った生き方をするようにと招かれているのです。そのためには少しオーバーかも知れませんが今までの自分を乗り越えていかなければなりません。今までの自分を過ぎ越していかなければならないのです。

こういうことは生きてゆく上でたくさんあるのではないのでしょうか。自分を守っていた固い殻を破っていかねば新しい生き方はできないのです。古い自分に死んで、古い自分を脱ぎ捨てていかなければ、せっかく始まった新しい生活を送ることはできないのです。

自分に死んでいく。自分自身を過ぎ越していく。それは何も新しい生活ばかりではありません。ふだんの生活のなかで、わたしたちは自分に死に、自分自身を過ぎ越してゆくことを繰り返しているのです。例えば体の不自由なお年寄りの面倒を見ている家庭の人は毎日毎日のお世話のなかで、自分自身を犠牲にしながら、自分自身を放棄しながら献身的にお年寄りに関わることでしょう。このように大切な人のために生きようとするとき、その生き方は自己否定をわたしたちに要求するのではないのでしょうか。今のままの自分にしがみついているのは愛に生きることはできないのです。

しかしなかなか自分自身に死んで、新しい生き方をするのは難しいものです。そんな時、イエスの復活の出来事はわたしたちに希望を与えてくれます。自分のために生きず、人のために生き、人を愛するがゆえに十字架にかけられていったイエス。そのイエスを父である神は死者のなかから復活させてくださったのです。わたしたちが日常のなかで何度も何度も体験する自分自身に死に、起きあがって、新しい生き方へと向かってゆく歩みは、すべてイエスが死んで死者のなかから復活させられたことに原点をおくのです。いえ、イエスが死んで復活なされたからこそ、わたしたちは安心して古い自分を脱ぎ捨ててゆくことができるのです。なぜならイエスを死者のなかから立ち上がらせてくださった父である神は、わたしたち一人ひとりを見捨てられるはずがないからです。

二人の弟子は空っぽの墓を見ます。復活なされたイエスはもう墓にはいません。新しいいのちを生きているのです。空の墓はわたしたち自身のところです。空っぽになったわたしたちのところに復活なされたイエスのいのちを息づかせるとき、わたしたちもまたイエスと同じように死んで、復活したものとなってゆくのです。弟子たちはこれから、復活なされたイエスと出会っていきます。新しいいのちとの出会いです。それは弟子たちをどんどん変えていきました。あの十字架から逃げ出した弱虫の弟子ではなく、復活の証人として、人々に宣べ伝え歩いたのです。

わたしたちも同じように新しいいのちと出会ってゆきましょう。